

労働図書館新着情報

今月の10冊(日本十進分類[NDC]順に掲載)

<p>① 渋谷望著『ミドルクラスを問いなおす』日本放送出版協会(252頁,新書判) 独力でプロレタリア化圧力から抜け出す努力をしている人々をミドルクラスと定義、総中流社会から現下の格差社会までを歴史的に渉猟。海外の事例も参照し、ミドルクラス社会の内奥を能力、住宅、文化の面から分析。ミドルクラス社会の困難性からの脱出の希望を「小文字のアナキスト」の行動スタイルに見出し出している。</p>	<p>⑥ チャールズ・ウェザーズ著『アメリカの労働組合運動』昭和堂(vii+235頁,A5判) 民主主義と競争のバランスの上に成り立つ「アメリカ・モデル経済社会」シリーズ全10巻の第七巻。ビジネス・ユニオンから社会運動ユニオンへのAFL-CIOの運動転換とその社会への影響を、全体的な歴史の流れと重要事件で解明しようとしている。日本の大学で日本の労働運動を研究するアメリカ人政治学者の著作。</p>
<p>② 五十嵐泰正編『越境する労働と「移民」』大月書店(313頁,B6判) 編者による「越境する労働」の見取り図のもと、8つの章・ノートで構成。高度人材、技能実習、特定活動、日系人等を取り上げるとともに、外国人労働者政策についての分析も収録。偏狭なナショナリズムに陥ることなく、生産的なグローバリズムを享受するためには、「移民」国家へのロードマップを描く構想力が必要と主張。</p>	<p>⑦ 前田信彦著『仕事と生活』ミネルヴァ書房(xiv+273+25頁,B6判) 現代労働社会の特徴は個人化と関係性の貧困であり、豊かな労働者生活の実現には、著者がワーク・ライフ・スキルと命名した能力が不可欠である、という。学校・企業教育等での能力涵養には政策的支援も必要であることを強調。大胆な仮説は、著者の関係性の回復に向けた苦闘の成果である。「叢書・現代社会学」の1冊。</p>
<p>③ 巖善平著『中国農民工の調査研究』晃洋書房(iv+280頁,A5判) 本書は、対照的な労働市場をもつ上海市と珠江デルタ地帯に暮らす農民工(農村出身の出稼ぎ労働者)を対象とした研究書である。胡・温体制による移住規制の緩和、農民工差別改革のもと、人口移動、移動者の労働と暮らしを開発経済学等の枠組みで分析、農民工の労働市場、労働条件、生活内容をつまびらかにしている。</p>	<p>⑧ 乾彰夫著『「学校から仕事へ」の変容と若者たち』青木書店(286頁,B6判) 本書の目的は、学校から仕事への移行過程で、不安定化・孤立化を強める若者に起きていることとその社会的課題を明らかにすることである。戦後日本の歴史的経緯とヨーロッパでの事例、量的・質的調査により、移行過程における個人化の進行、学歴・階層・性別格差の存在、コミュニティの重要性、等を導き出している。</p>
<p>④ 森ます美他編『同一価値労働同一賃金原則の実施システム』有斐閣(xxii+356頁,A5判) 社会政策と労働法の研究者で構成されたベイ・エクイティ科研究研究会の成果。ILO・国連の専門委員会等が男女間及び正規・非正規間の賃金格差の是正を勧告しているが、アンケート・インタビューによる実態把握・要因分析に基づき、実施システム構築に焦点を合わせ研究を実施。同一賃金は、理念から実行の段階にある。</p>	<p>⑨ 小玉徹著『福祉レジームの変容と都市再生』ミネルヴァ書房(viii+276頁,A5判) 「現代の福祉国家」シリーズの一冊。ポスト工業化に伴う雇用の流動化が、失業とホームレス化も惹起していると分析。職と住まいの同時喪失に対し、欧米との比較研究により新たなセーフティネットを模索。労働・社会政策にも関与を深めつつ雇用と住宅の再構築を目指す、住宅政策研究者による都市再生のための提言の書。</p>
<p>⑤ 西谷敏他編『労働契約と法』旬報社(v+341頁,A5判) 関西の労働法理論研究会に集う研究者14人の共同研究の成果。労働契約法が施行されて3年弱が経過したが、本書は、制定法と学問的領域としての労働契約法との乖離を埋める努力である、という。解釈論と立法論両面からの分析に加え、法自体には規定されていない労働者派遣、従業員代表制、企業組織再編等論文も所収。</p>	<p>⑩ 大分大学経済学部編『地域ブランド戦略と雇用創出』白桃書房(vii+209頁,A5判) 雇用の維持・創出、地域の活性化の達成には、農産物等の地域資源のブランド化は有力な手段である。本書は、経営学的視点からの理論的整理、事例研究、アンテナ・ショップの現状分析、アンケート調査等により、地域ブランドによる雇用創出の実態に迫っている。大分大学経済学部の4人の研究者による共同研究の成果。</p>

主な受け入れ図書

(2011年1月〜2月労働図書館受け入れ)

① 大串夏身他著『インターネット時代のレファレンス』日外アソシエーツ(xii+216頁,A5判)	③ 成澤廣修著『なんちゃって育児休暇でパパ修行』主婦の友社(191頁,B6判)
② 中西五洲著『友愛の社会を求めて』同時代社(201頁,B6判)	④ 労働法学会編『わかりやすい改正育児・介護休業法の解説』労働法令(246頁,A5判)
③ 土田とも子編『全所的共同研究の40年 インタビュー記録編』東京大学社会科学研究所(436頁,B5判)	⑤ 福地保馬著『ディーセント・ワークの実現を』学習の友社(118頁,A5判)
④ 法政大学大原社会問題研究所編『社会労働大事典』旬報社(vii+1246頁,A5判)	⑥ ミレイユ・ジュリアノー著『フランス女性の働き方』日本経済新聞出版社(241頁,B6判)
⑤ 畠中信夫著『法令読解ノート』全国労働基準関係団体連合会(166頁,A5判)	⑦ 平井京之介著『村から工場へ』NTT出版(iii+257頁,B6判)
⑥ 晴山一穂他著『欧米諸国の「公務員の政治活動の自由」』日本評論社(vii+237頁,A5判)	⑧ 佐藤昭夫編著『早稲田大学企業年鑑裁判』悠々社(456頁,A5判)
⑦ 藻谷浩介著『デフレの正体』角川書店(270頁,新書判)	⑨ 高知聡著『高揚した日本労働運動の軌跡』現代思潮新社(342頁,B6判)
⑧ 松谷明彦著『人口減少時代の大都市経済』東洋経済新報社(293頁,B6判)	⑩ 森口朗著『日教組』新潮社(239頁,新書判)
⑨ 佐々木利廣他著『組織間コラボレーション』ナカニシヤ出版(viii+213頁,A5判)	⑪ 労働史・史料研究会編『ヒストリー』平成22年度日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書(190頁,A4判)
⑩ 野中郁次郎監修『組織は人なり』ナカニシヤ出版(265頁,B6判)	⑫ 和田正太郎・ヒストリー』平成22年度日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書(133頁,A4判)
⑪ 国土交通省他編『The Telework Guidebook』国土交通省(iv+118頁,A4判)	⑬ 中間真一他著『仕事と子育て』幻冬舎(205頁,新書判)
⑫ 吉田実著『新・ぶら下がり社員』症候群』東洋経済新報社(205頁,B6判)	⑭ 渥美由喜著『イクメンで行こう!』日本経済新聞出版社(327頁,B6判)
⑬ 全国勤労者福祉・共済振興協会編『国際保険監督および国際会計基準』研究』全労済協会(64頁,B5判)	⑮ 中村尚史他編『炎の記憶』東京大学社会科学研究所(182頁,B5判)
⑭ 原克著『サラリーマン誕生物語』講談社(334頁,B6判)	⑯ 山口美和著『日本企業における「和」の機能』大阪大学出版会(iv+177頁,B6判)
⑮ 労働法学会他編『労働基準法解釈総覧 改訂14版』労働法令協会(836+14頁,B6判)	⑰ 新井紀子著『コンピュータが仕事を奪う』日本経済新聞出版社(221頁,B6判)
⑯ 経営法学会編『最高裁判例 第2期第5巻』日本経団連出版(375頁,A5判)	⑱ 牧野義博著『人間の尊厳と労働』丸善プラネット(xi+345頁,B6判)
⑰ 原みどり著『若年労働力の構造と雇用問題』創成社(x+196頁,A5判)	⑲ ルース・シュウォーツ・コーワン著『お母さんは忙しくなるばかり』法政大学出版局(xxii+246+56頁,B6判)
⑱ パーバ・ポーコック著『親の仕事と子どものホンネ』岩波書店(viii+254頁,B6判)	⑳ 渡辺純子著『産業発展・衰退の経済史』有斐閣(v+359頁,A5判)
⑲ 雇用・能力開発機構編『全国的職業能力形成を目指して』職業能力開発総合大学校(38頁,A4判)	㉑ 清成忠男著『地域創生への挑戦』有斐閣(viii+262頁,A5判)
⑳ スティーブン・R・コヴィー他著『グレート・キャリア』キングベアー出版(viii+250頁,B6判)	㉒ 日通総合研究所編『企業物流短期動向調査 2010年12月調査』日通総合研究所(30頁,A4判)

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書108,000冊、洋書27,000冊、和洋の製本雑誌21,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30 ~ 17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

利用資格: どなたでも自由に利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています